

北海道アイヌ政策推進方策

- 1 理解の促進 (1) 正しい理解に向けた教育の充実
(2) 道内外への普及啓発

事業の実施状況

- 関連事業
民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算、アイヌ協会補助金、アイヌ民族文化財団事業費補助金、アイヌ総合センター管理運営費、アイヌ教育相談員設置費、北海道ふるさと教育・環境教育等推進事業 など
- 主な実施状況
幼児啓発用人形劇の制作・上演、上演動画の配信、人形の貸出し
理解促進フォーラムの開催
体験学習イベント開催
歴史や文化の啓発動画を制作・ウェブで配信
オンライン体験学習の開催
啓発冊子の作製・配布



R6.2.4開催「アイヌフォーラム北海道」

R4年度実施:ほっかいどう
アイヌ文化キャラバン啓発冊子:令和6(2024)年度版
2025年3月改定R5.2～3実施:
アイヌ文化人形劇
キャラバン

総括、傾向等

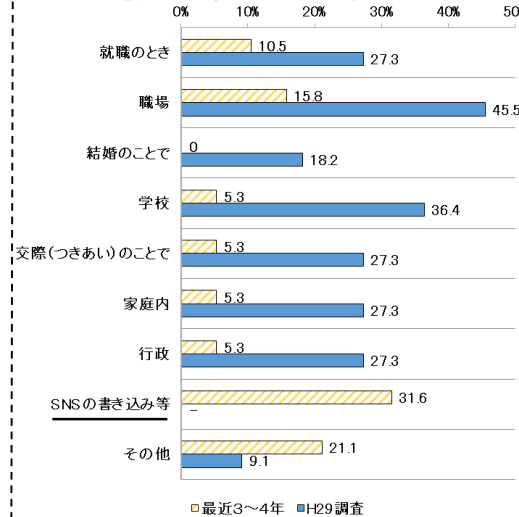
- ・アイヌの人たちに対する正しい理解促進に向けた教育、啓発等を実施。
・差別を受けた場面として、対面による多くの場面について大幅に減少しているが、R5に新規調査項目とした非対面のSNSの書き込み等が最も多い。

生活実態調査等

○ 自分自身への差別 ※生活実態調査

区 分	R5調査
差別を受けたことがある	29.0%
差別を受けたことがない	42.8%
わからない、不詳・未回答	28.2%

○ 差別を受けた場面(自分自身) ※生活実態調査

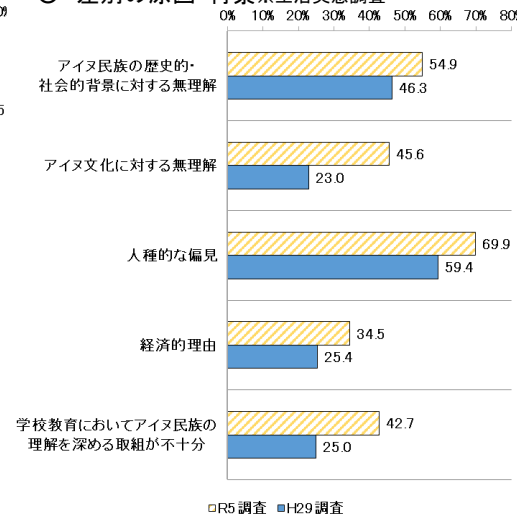
※【R6道民意識調査】
アイヌ施策推進法における「差別禁止」の認知度

区 分	回答割合
知っていた	61.2%
知らなかった	37.6%
未回答	1.2%

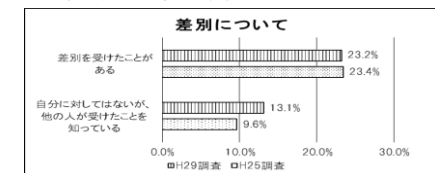
○ 身近な人への差別 ※生活実態調査

区 分	R5調査
直接、見聞きしたことがある	38.1%
直接、見聞きしたことがない	27.8%
わからない、不詳・未回答	34.1%

○ 差別の原因・背景 ※生活実態調査



※ 参考(H29,H25調査)



北海道アイヌ政策推進方策に係る事業の実施状況及び生活実態調査の結果について②

北海道アイヌ政策推進方策

- 2 生活の向上
- (1) アイヌの人たちの教育の充実
 - (2) 雇用の安定
 - (3) 生活の安定・向上と生活環境の改善

事業の実施状況

- 関連事業
アイヌ高等学校等進学奨励費、アイヌ専修学校等進学奨励費補助金、アイヌ高等学校通学費補助金、アイヌ協会補助金、アイヌ教育相談員設置費
就職奨励事業費補助金、アイヌ雇用促進費補助金、公共職業訓練手当、アイヌ入校対策費、就職支援委託訓練費
生活館整備事業費補助金、生活環境施設改善整備事務費、アイヌ住宅改良促進事業費補助金など

- 主な実施状況
【高等学校等進学奨励費】

区分	高校・大学別		人数			
			R3	R4	R5	R6
入学支度金	高校 (給付)	国公立	47	48	45	43
		私立	18	21	19	25
	大学(貸付)		10	17	7	7
修学資金	高校 (給付)	国公立	166	152	137	129
		私立	51	58	59	66
	大学 (貸付)	国公立	14	10	10	5
		私立	54	47	38	33

【専修学校等進学奨励費補助】

区分	人数			
	R3	R4	R5	R6
入学支度金	15	15	7	10
修学資金	45	38	23	23

【就職奨励事業費補助金（技能習得費）】

年度	R3	R4	R5	R6
人数	14	5	11	9

【高等学校通学費補助】

年度	R3	R4	R5	R6
人数	49	41	37	43

【生活館運営費補助金】

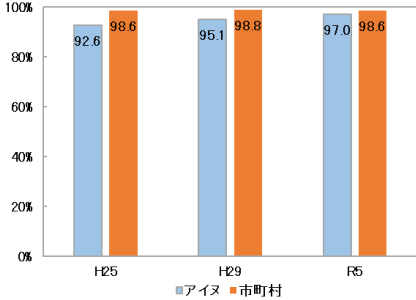
年度	R3	R4	R5	R6
館数	139	139	139	137

生活実態調査

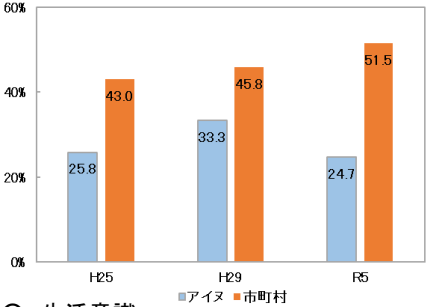
- 生活保護の状況（世帯、人、％（パーミル））

区 分	人 数	生活保護		保護率	市町村の保護率	市町村との差
		世帯数	人 員			
令和5年調査	11,450	359	466	41.0	31.6	1.3倍
平成29年調査	13,118	281	386	36.1	32.1	1.1倍
平成25年調査	16,786	412	657	44.8	33.1	1.4倍

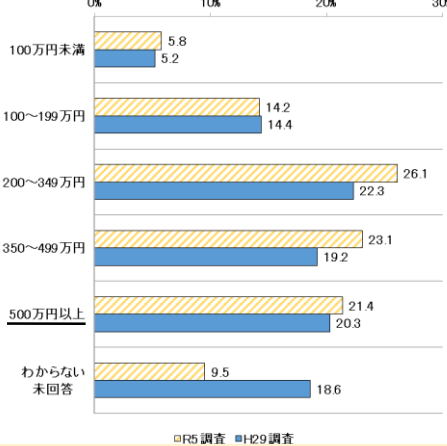
- 高校進学率（％）



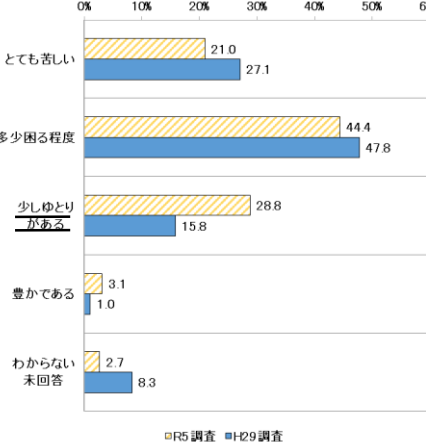
- 大学進学率（％）



- 世帯の年間所得の状況



- 生活意識



総括、傾向等

- ・進学奨励費、就職奨励費、住宅改良促進事業費の補助等を実施。
- ・所得の状況・生活意識は改善傾向がみられるが、生活保護率などは、依然として市町村の平均と比較して格差がみられる。

北海道アイヌ政策推進方策に係る事業の実施状況及び生活実態調査の結果について③

北海道アイヌ政策推進方策

- ### 3 文化の振興
- (1) 文化の保存・伝承
 - (2) 文化の魅力発信
 - (3) 文化振興の基盤づくり

事業の実施状況

○ 関連事業

民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算、アイヌ民族文化財団事業費補助金、アイヌ総合センター管理運営費、アイヌ文化保存対策費、アイヌ協会補助金

○ 主な実施状況

【アイヌ総合センター管理運営費】

道立アイヌ総合センターは、アイヌ民族の歴史認識を深めることや文化の伝承、保存の促進を図ることなどを目的に平成3年に整備

年度	R3	R4	R5	R6
来館者数(人)	4,356	9,651	9,537	9,176

【民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算/ウポポイ・アイヌ文化関連施設等魅力発信事業】

・国内外PR動画発信



・道内外PRイベント



・アイヌ文化発信パフォーマンス



・教育旅行説明会の開催



・海外インフルエンサーを招聘したファムトリップの実施・ガイドマップの作成



・アイヌ食文化を通じた関心向上 伝統料理新レシピの開発等



【アイヌ民族文化財団事業費補助金】

公益財団法人アイヌ民族文化財団が行う事業に対し、国と並行して補助。

年度	R3	R4	R5	R6
予算(千円)	295,808	304,269	304,231	303,135

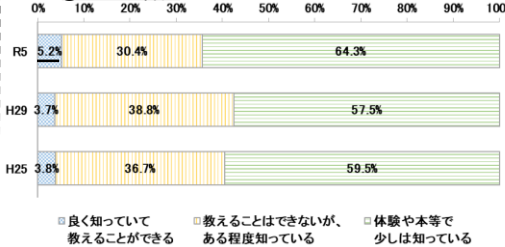
総括、傾向等

- ・アイヌ文化の振興に係る文化の保存・伝承や、多様な媒体や機会を活用したアイヌ文化、ウポポイをはじめとしたアイヌ関連施設の魅力発信を実施。
- ・アイヌ文化の認知度について、調理など良く知っていて教えることができるとの回答割合が増加しているものがある一方で、アイヌ語は大きな変化がない。
- ・伝承活動に関わっている(たことがある)アイヌの割合が増加するとともに、アイヌの人々や文化と接したことがある道民も増加傾向にある。

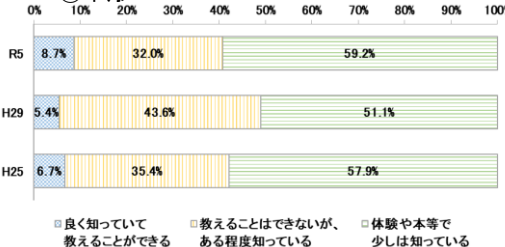
生活実態調査等

○ アイヌ文化の認知度※生活実態調査

①アイヌ語

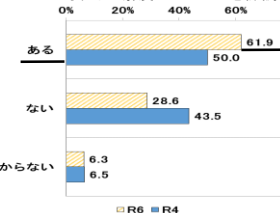


③木彫



○ アイヌの人々や文化と接した機会の有無(道内)

※国民のアイヌに対する理解度についての意識調査結果(令和6年度)

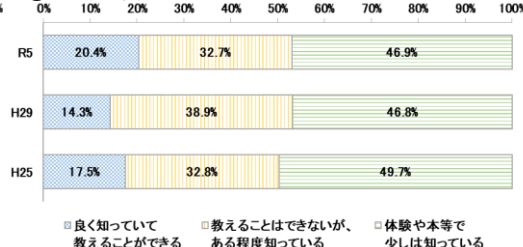


○ 積極的な活動を進めるために必要なこと (R5調査で回答が多かったもの上位3回答)

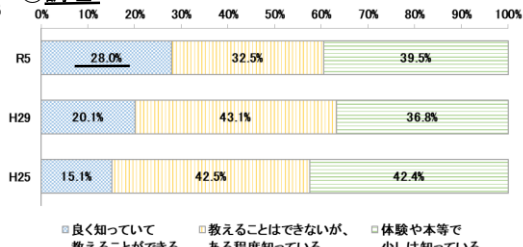
※生活実態調査

- 1 指導者(後継者)の養成 83.4%
- 2 活動費の確保 58.6%
- 3 活動場所の確保 40.8%

②(民族)舞踊

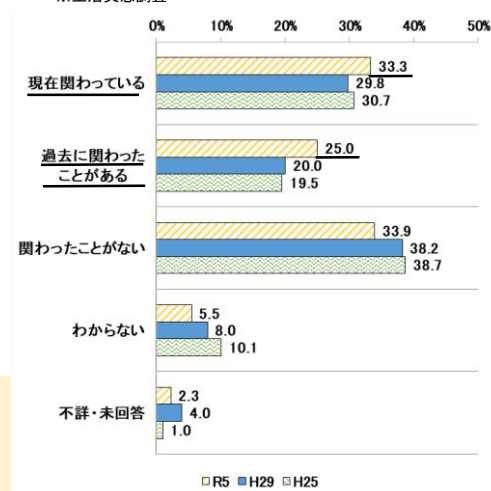


④調理



○ アイヌ文化伝承活動への参加(実践)

※生活実態調査



北海道アイヌ政策推進方策に係る事業の実施状況及び生活実態調査の結果について④

北海道アイヌ政策推進方策

- ### 4 地域・産業及び観光の振興
- (1) 伝統工芸等の振興
 - (2) 文化を核とした地域や観光の振興
 - (3) 産業の振興

事業の実施状況

- 関連事業
民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算、アイヌ民族文化財団事業費補助金
アイヌ中小企業振興特別対策費補助金、アイヌ農林漁業対策事業費 など

- 主な実施状況
【民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算/アイヌ工芸品販路拡大・担い手育成推進事業】
・アイヌ工芸品販路拡大



アイヌ工芸品の販売機会を確保するとともに、アイヌ工芸品の認知度向上に向け、価値や魅力のPRのため、道内外でポップアップストアの開設等を実施

- ・担い手育成推進事業<出前講座・インターン研修の実施>

区分	概要	受講人数(人)			
		R3	R4	R5	R6
出前講座	高校生や大学生を対象に、工芸家から直接アイヌ工芸の制作技術を学ぶ講座を実施	43	267	149	117
インターン研修	出前講座受講者をアイヌ工芸家のもとに派遣し、集中的にアイヌ工芸の制作技術を学ぶ研修を実施	5	10	10	10



- 【民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算/ウポポイ・アイヌ文化関連施設等魅力発信事業】

ウポポイをはじめとした道内各地にあるアイヌ文化関連施設と観光資源等の連携を深め、広域的な周遊促進等を図る取組:
道内外PRイベント、国内外へのPR動画発信、海外インフルエンサーを招聘したファムトリップの実施 等



- 【アイヌ中小企業振興特別対策費補助金】
公益社団法人アイヌ協会が行う事業に対し、経費の一部を補助。

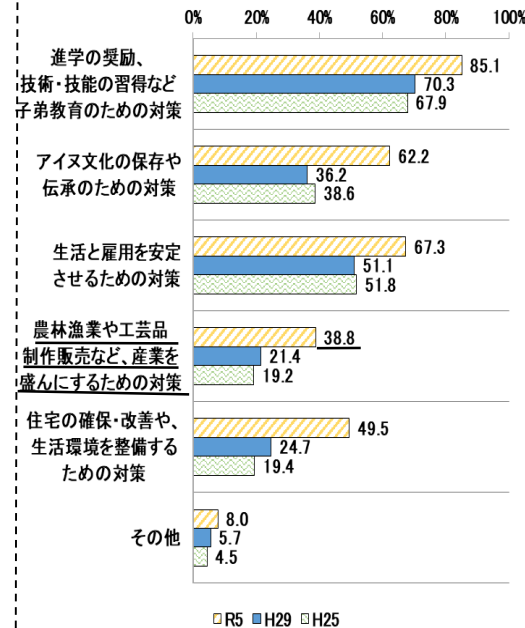
年度	R5	R6
予算(千円)	10,161	10,161

- 【アイヌ農林漁業対策事業費】
アイヌ農林漁家の経営の改善に必要な農林漁業経営近代化施設等の整備を支援。

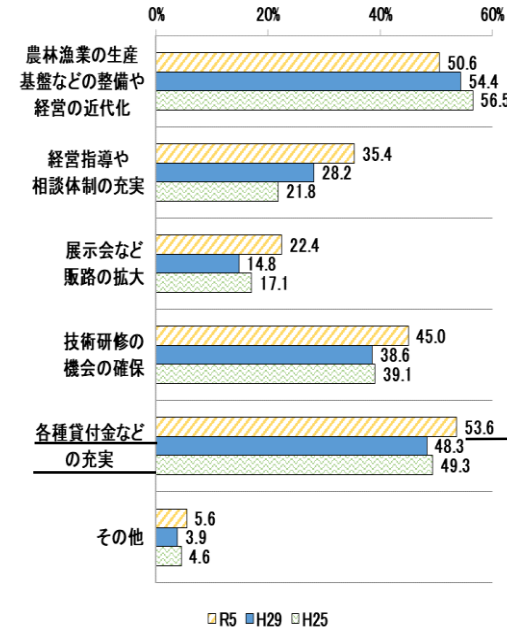
年度	R5	R6
予算(千円)	194,616	194,608

生活実態調査

- 今後重要だと思う対策



- 産業振興のために重要だと思う施策



総括、傾向等

- ・アイヌ工芸品の販路拡大、伝統的技術を継承する若き担い手の育成に取り組み、また、アイヌ文化を核とした地域や観光の振興を実施。
- ・今後重要だと思う対策について、「農林漁業や工芸品制作販売など、産業を盛んにするための対策」との回答割合は約1.8倍増加し、4割弱となっている。
- ・産業振興のために重要だと思う施策について、「各種貸付金などの充実」との回答が最も多くなっている。

北海道アイヌ政策推進方策に係る事業の実施状況及び生活実態調査の結果について⑤

北海道アイヌ政策推進方策

5 多様な文化との交流促進 国際交流等の促進

事業の実施状況

- 関連事業
民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算、アイヌ民族文化財団事業費補助金

- 主な実施状況
【民族共生象徴空間(ウポポイ)関連予算/アイヌ文化発信パフォーマンス事業】
・ハワイとの友好提携宣言5周年事業(R5.1/ハワイ州ホノルル)
州知事主催レセプションなどの場を活用し、アイヌ文化発信パフォーマンスを披露するとともに、
ハワイ語の伝承に取り組んでいる学校において、先住民族文化の振興について意見交換等実施



- ・G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合
(R5.4/札幌市内)
政府主催歓迎レセプションにおいて、アイヌ文化発信パフォーマンスを披露

- ・日本・ハワイ姉妹州姉妹都市サミット
(R5.7/ハワイ州ホノルル)
北海道主催の昼食会において、アイヌ文化発信パフォーマンスを披露



総括、傾向等

- ・様々な機会を捉えて多様な文化との交流促進を実施。
- ・生活実態調査の回答者のおよそ半数が海外の先住民族との交流に関心があると回答している。
- ・交流でどのようなことを知りたいかとの設問においては、文化の伝承保存との回答が最も多く、次いで先住民族の歴史、先住民族としての誇りや帰属意識の順となっている。

【アイヌ民族文化財団事業費補助金 / 青少年国際文化交流研修事業】

アイヌ文化の伝承・保存に関心を持つ青少年が海外の伝承・保存活動事例を学ぶために実施する先住民族等との交流活動支援

年度	R3	R4	R5	R6
交流先 (青少年派遣人数)	コロナのため 中止	ニュージーランド (10人)	ニュージーランド (6人)	フィンランド (8人)

生活実態調査

○ 海外の先住民族との交流についての関心(R5新規調査)

区 分	実数	総 数 (472人)	30歳未満 (53人)	30歳代 (42人)	40歳代 (81人)	50歳代 (88人)	60歳以上 (201人)	不 詳 (7人)
1.関心がある	231	48.9	41.5	52.4	51.9	40.9	52.2	57.1
2.関心はない	232	49.2	58.5	47.6	48.1	54.5	46.3	14.3
3.未回答	9	1.9	0.0	0.0	0.0	4.5	1.5	28.6

○ 交流でどのようなことを知りたいか

